

## 87号の池雪国民学校が焼けた日を拝読して

実は私も当日の目撃者です。当時我々6年生は集団疎開の伊豆古奈温泉から3月5日に中学受験の為帰郷し数日後の3月10日あの空襲、その夜現在の東中公園脇から見た光景は忘れられるものではない。都心方面の夜空に銀色に平然と編隊を組んだ数十機のB29から、やがて爆弾か焼夷弾が地上に落下していきその数分後、地鳴りの様な音と共に真っ赤な紅蓮が中空まで立ち昇った。その瞬間聞こえる筈の無い地上の人々の阿鼻叫喚が聞こえた様な気さえたものだった。又当時久が原に優秀な高射砲基地が有り連日の様な空襲警報解除の翌朝、「Bこう(B29)が落とされたぞ見に行こう」と情報通のガキ大将の後から付いて行きそこで見たものとは、とある農家の前庭にアメリカ航空隊員らしき一人が目隠しされ椅子に座らされていたことに驚いたのに、農家の裏の大櫓の梢に更にもう一人米兵が落下傘を背にしたまま中空にぶら下り息絶えていた光景も少年には忘れられない。

さて氏の云われる4月15日、我家族も空襲警報発令と同時に庭の防空壕に入り息を殺していたが様子を見ていた父が「火が来ている、もう駄目だ、壕に土を被せるから安全な方に逃げろ!」の叫び声に壕を飛び出し母を中心にまず吾川方向に逃げ始めたがしかし、その方面からも大勢逃げてきて「こっちは全滅だ、来ても駄目だ」の声に驚き今度は洗足流に踵を返したがこっちからも大勢逃げてくる、当時荏原病院の脇に小さな木立の中にお稲荷さんがあり万事窮す。(もうここに居よう)と数家族で警報解除を待ったがまた学校が駄目らしいの噂で夜明け前に池雪に跳んで行った。その時の光景が正に高野氏(87号での投稿者)の記述通り、校庭の南の角で茫然真っ赤に焼け落ちた校舎を見ていると「手の打ちようも有りませんでした」と大人の声に振り向くと当直だったのか当時の鈴木教頭と飯田校長のお二人の悲痛な残火に映えた顔が忘れられません。そして8月15日我家は引越準備で大変、今度は急に戦火延焼防止地区に指定され既に近くまで取り壊しが迫り気が気では無い。その間ラジオでは再三正午に重大放送が有る、全員漏れなく聞くようにの繰返し、警報は鳴りっぱなし食事出来ずやがて正午。「朕思うに…忍び難きを忍び…」さっぱり解らん。しかしそれまでじーっとお言葉を聞いていた父が終わると開口一番の言葉が「澄雄直ぐその防空壕を埋めてしまえ」と云った父の目に涙がにじみしかしどこか笑顔だった。勝ち負けは別として、これで戦争は終わり空襲は無いんだと理解し心が空になったような68年前の記憶である。

(東中・伊藤澄雄)



『みんなで語ろう! 「昔」と「今」のわが地域』より

私は「小池小学校」を1959年(第23回)の卒業生です。昨年は創立80年を向えたそうです。この年になると今は昔の感があり、感慨にふけるより、ああそうだったんだという心境です。

思い出してみると入学時は生徒の数が多く1年の時は二部制でした。1クラス50名の6組制で6年間を過ごしました。

低学年の時の遠足では多摩川園・上野動物園・向ヶ丘遊園地など今はなき施設に行った記憶がありほとんどが父兄同伴でした。

高学年になると、学業は全く別にして休み時間の校庭は、巨大な遊び場でした。怪我の心配もなく、先生からは禁じられた遊びで友と盛り上がりました。特にナガ馬でした。チームで話し合い特定の位置を何人もで攻め倒し優越感に浸っておりました。

現在もそうだと思いますが、クラス仲間での行動でしたので各組ごとの連帯感が自然と生まれ、他クラスとのドッジボール・ソフトボールなど対抗戦をよくやりました。

私が在学中の思い出の大半を占めたのはやはり運動会です。6年生の時クラスのリレー選手でしたが、学校代表で我が校の他洗足池小・清水窪小などの他校と石川台中・大森六中の運動会で競走した思い出です。どうしても清水窪小には勝てませんでした。(女子は常勝でした)

それと我が母校の6年生は運動会の時(現在では幼稚園でも実施?)他校では実施していなかった「組体操」を行っておりました。メインはピラミッドとっております。練習の時はなかなか出来なかったのですが、本番は大成功でした。6年3組でしたのでたしか本部席の前あたりの場所での演技だったと記憶しております。指導された先生からは、失敗した時は静かにその場所に座り他演技者を見ているように、練習し努力したのだから胸を張れと言われた一言が、気持ちをやわらげ成功に結びついたのではと思っております。

最後に最近聞くと同窓生の物故者若干いらっしゃるって聞き、皆様におかれましてはお体にくれぐれも気をつけストレスの無い楽しい日々を送られることを切望いたします。

(笹丸・田中延佳)

## 編集後記

寒さがようやく遠のいて、桜の開花に心浮きた季節がやって来ました。“ホッと一息 いこいの水辺”小池公園の周りも暖かな日射しが、微笑みかけています。

スタートしたばかりの、洗足区民センターでの土曜文化講座、内容も充実素晴らしい講師陣と共に、日本伝統の文化の息吹に触れての貴重なひと時を味わいました。

地域の豊かさは、私達一人ひとりの財産です。皆様からの御意見、御投稿によって編集もより一層、知恵をしぼって参りたいと思っています。よろしくお願い致します。

(池の台・柏 三八子)

ふれあい雪谷(創刊・平成2年(1990)12月20日) 年4回発行

(1月・新年号/4月・さくら号/7月・あさがお号/10月・もみじ号/の1日発行)

[発行日] 平成25年(2013年)さくら号 4月1日(通巻・第90号)発行

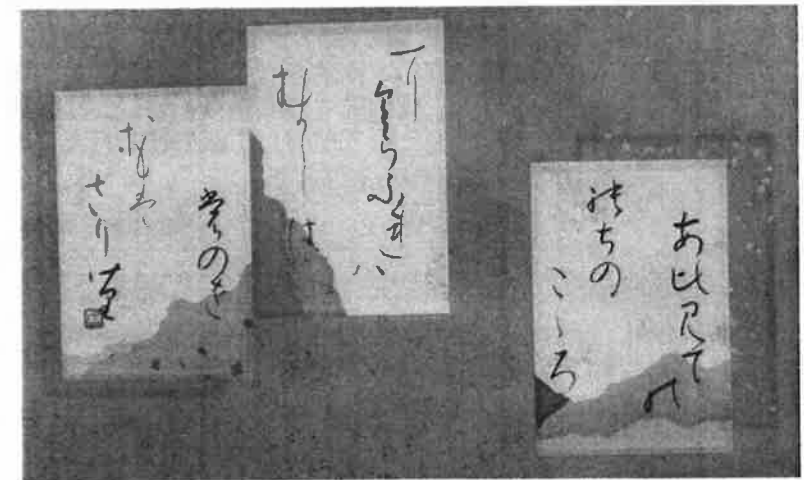
[発行] 地域力推進雪谷地区委員会 [編集]「ふれあい雪谷」編集委員会

[連絡先] 雪谷特別出張所

〒145-0065 大田区東雪谷3-6-2 電話3729-5117 FAX3729-1826

## ふれあい雪谷

平成25年 4月 さくら号 通巻第90号



南雪谷 渡辺 和枝さんの作品

百人一首(四三番)

あひ見ての  
後の心に比べれば  
昔はものを  
思はざりけり

## 地域住民との絆を大切に!!

私も、小池駐在所に赴任して30年を過ぎ、日ごろの諸活動を通じて住民の喜びや悲しみ、怒りなどの様々な場面に接し、時には悪戦苦闘しながらも、安心・安全の平穏な町づくりに努力しているところです。

物の豊かさや心の豊かさが反比例する現代で、物があふれて人の心の荒廃が進み以前の地域社会に見られた周りの者への気配りや人がわかる心、感謝の心といった「思いやりの心」が希薄化しつつあるといわれているところ。

こうして、地域社会の「絆」が年々薄れ、それが犯罪や事故の多発にもつながっている指摘されています。

そこで、身近な駐在所員として思いやりの心に根ざし、地域に密着した活動として、不安感を与えている犯罪には毅然と対決し善良な住民を守っていく姿は心の琴線に触れることです。

最後に、今後も駐在所活動は住民の思いを知り息吹を感じながら地域活動に邁進し、「地域の安心・安全を守る」ことです。地域の皆様のご支援なくして遂行することは困難です。今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(小池・谷川寛)

### 荏原病院認知症疾患医療センターのご紹介

専門医が診断し、他の医療機関や行政、地域包括支援センターと連携した認知症の相談窓口が荏原病院にあります。そのご紹介です。

当院は、平成24年4月に東京都から認知症疾患医療センターの指定を受け、認知症の専門医療相談や診断などに取り組んでいます。窓口では「親の物忘れがひどくなって」という相談をよく受けるようになりました。物忘れには、加齢によるものと病気であるものがあります。もし、認知症という病気が原因であれば、早期の診断と治療が重要です。気になることがありましたら、当院の相談窓口までご相談下さい。また、かかりつけ医にご相談をされた上で、当院の「もの忘れ外来」に電話予約をして、受診してください。

○認知症疾患医療センター相談窓口  
電話：03-5734-7028 (直通)  
平日9時～17時  
○「もの忘れ外来」予約窓口  
電話：03-5734-5489



(認知症疾患医療センター長・田久保秀樹)

## “ご近所様” 荏原病院

本門寺、神社、学校、洗足池、富士山を望む坂、東京タワーの夜景が楽しめる場所等、素晴らしい“ご近所様”がある中でチョット趣が異なりますが、もう一つの“ご近所様”は荏原病院です。

明治30年制定の伝染病予防法。世田谷村に隔離病棟、昭和9年此の地で診療開始との事、“ご近所様”が沢山ある此の地に祖父と母と荷台に揺られて引越して来たのが終戦直前、まだ表札に「大森區雪ヶ谷町」が残っていた時代です。今の病院敷地の半分くらいは畑で、病院との境には桜並木があり、風揚げやチャンバラ、時々肥溜めにドボン!も。

バス通りにはプラタナスの街路樹、同潤会住宅、池雪小学校、その先には品鶴線の線路。周りは畑が広がり、深夜には貨物列車のゴトンゴトの音が気持ちよく響く穏やかな田園風景でした。

消防署との境に小さな森があり、春の桜、夏の本陰、秋の銀杏と狭いながらも伐採せずに残してくれて有り難いことです。

私も「部品の交換」で入って来ましたが、そんな病院も“入る”と、どうしてこんなに病人がいるのか?と自分もその一人なのを忘れて驚きの一言でした。

作家の宇野千代さんが生前、入院された感想を聞かれて“楽しいんです。幼稚園の遠足に行くようなもの”と言われたそうです。そんな心境になれるのは後100年先かもしれません。

“羽田でコレラ発生、荏原病院に搬送”等の新聞記事は昔話になりましたが、治療が難しい肺炎や風邪が新しい驚異の様相、便利・賢況を追求し、森が少なくなると、どんな病気が発生するのか?悪循環の不安は何時まで続くのでしょうか。

そんな不安に、もう一つの不安は私事で恐縮ながら我が家の不安です。テレビの漫才では亭主がゴミ、粗大ゴミ。我が家では現実“おい、お茶!”としゃべるゴミは粗大ゴミ以下のようなです。“頼みます、ついて来ないであの世まで”と言われていました。

せめて追い出されないように、慣れない家事を手伝い、ほそぼそと息をしています。

“健康第一、命より大事”出来るだけ“入る”時期を先延ばしして病院の外側を散歩して楽しみたいものです。

心の隅に何か安心を与えてくれるのが、ご近所様“荏原病院”だなあ〜とつくづく感謝です。

末筆失礼ながら、皆様の一日一日が明るく楽しい日々でありますよう、心よりお祈り申し上げます。

(東雪・佐藤忠彦)



### ねがた桜みち

(地域コミュニティと文化を造るために)

上池上自治会に新幹線ガード下から子安八幡神社・林昌寺前を第二京浜国道へ至る桜並木の遊歩道が出来て10数年が経ちます。昨年その道を「ねがた桜みち」と命名し、お花見を開催いたしました。

その後「ねがた桜みち実行委員会」の会議の結果、この道を中心に地域の活性化を目指し、恒例のイベントを開催する事で、地域コミュニティと文化を造って行こうと決めました。本年3月29日～4月7日を「ねがた桜まつり」とし桜のライトアップや花見の宴を催す予定です。

一歩ずつですが確実に「ねがた桜みち」を育てていきます。

(ねがた桜まつり実行委員会)



## 地域の防災について考えよう!

### 大田区総合防災訓練

昨年11月11日(日)大森第六中学校及び周辺地域で大田区総合防災訓練が行われました。雪谷地区からは池の台自治会、田園調布消防団第8分団等が参加しました。

今回の訓練では、平日の午前9時に首都直下地震(M7.3)が発生しライフラインや鉄道が停止し、復旧の目途が立っていない状況を想定して行われました。スタンドパイプによる初期消火やポンプ放水訓練、応急救護訓練などのほか、大森六中の教職員、生徒にも洗足池の水を利用した放水訓練、アルファ化米の炊き出し、備蓄物資の出し入れなどに参加いただきました。大田区で初めての学校防災活動拠点訓練を実施しました。

### 日赤奉仕団雪谷分団・

### 地域力推進地区委員会合同施設見学会

昨年11月15日(木)日赤奉仕団雪谷分団、地域力推進雪谷地区委員会合同施設見学会が行われました。今回は神奈川県総合防災センターで防災体験学習を行いました。このセンターには、地震や風水害などの体験ができるコーナーやいろいろな防災情報の展示があります。地震体験コーナーでは、震度7までの地震体験を通して、突然の地震にあわてないための注意点を学びました。また風水害体験コーナーでは、風速30m/秒の強風体験とその時の戸外の映像が映し出され、臨場感たっぷりの体験をすることができました。

### 地域防災力向上まちなか点検事業について

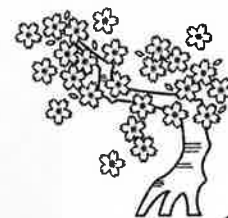
雪谷地区では、自助・共助意識の高い住民、地域の育成を目的に東雪自治会、小池自治会、上池上自治会が大田区防災課主催の地域防災力向上まちなか点検事業に参加しました。昨年10月から1月まで、計4回にわたり参加者同士で話し合うワークショップを中心に災害時の安否確認、見守りについてのルールが検討されました。最終回には、各自治会での防災指針が出され、「日頃の挨拶が育む地域の絆、3助(自助、近助、共助)で支え合う雪谷を目指します。」という防災宣言が決定されました。検討結果は自治会へ配布される予定です。

### 第4回小池公園春祭り開催のお知らせ

小池自治会と小池若者組合では、今年も洗足風致協会の協賛を得て、下記のとおり開催いたします。

○日時 4月6日(土)  
午前10:00～午後1:00  
※雨天 4月7日(日)

○場所 小池公園  
○催し物 餅つき大会、宝釣り、輪投げ、ヨーヨー釣り等



“小池公園の春をお年寄りから子どもまで楽しみましょう”